

鴨川ふるさと会だより

— 第2号 —

鴨川ふるさと会事務局発行：〒296-8601

千葉県鴨川市横渚1450番地(鴨川市役所企画財政課内) TEL:04-7093-7828

故郷鴨川のありがたさを強く実感したのは、息子が生まれてからだ。子育てをする中で、自分の子供時代をいつも振り返っていた。海も山も川もない埼玉県鳩ヶ谷市は故郷なのだろうか？貧乏ながら自然に囲まれ、新鮮な海の幸山の幸を食べて育ち、大家族、沢山の親戚の皆に囲まれて育つ

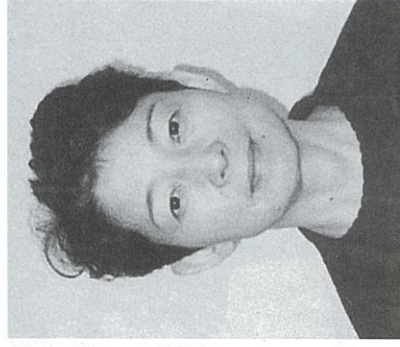
今年の夏の甲子園決勝、最終回日本文理の驚異のねばりは、長く語り継がれる名勝負となった。優勝した中京大中京を忘れたほどである。新潟で大学生活を送っている息子と出かけたカンボジアで、衛星中継のリアルタイムの画面から目が離せなかった。日本文理は新潟大学のご近所なので、息子にとっても応援のし甲斐があったに違いない。大きな災難に立て続けにみまわれた新潟県民にとっても、心から故郷を誇りに思った瞬間だったろう。

た私の幸せな子供時代。漁師の父は、お金は「太平洋」銀行に積んであると言って、幼い私をケムにまいた。大学進学と同時に鴨川を離れ、都会生活のほうはずっと長くなっ

たが、いまだに買って来たお刺身は食べられない。自然の中で遊ばせたいと思い、休みのたびに息子をセツセと鴨川に連れ帰り、同じ年代の従姉達と遊ばせた。私と

同じように幸せな子供時代を送つてはしかなかった。医療の充実している鴨川は、子育てにも安心な町であることを有難い事と思う。

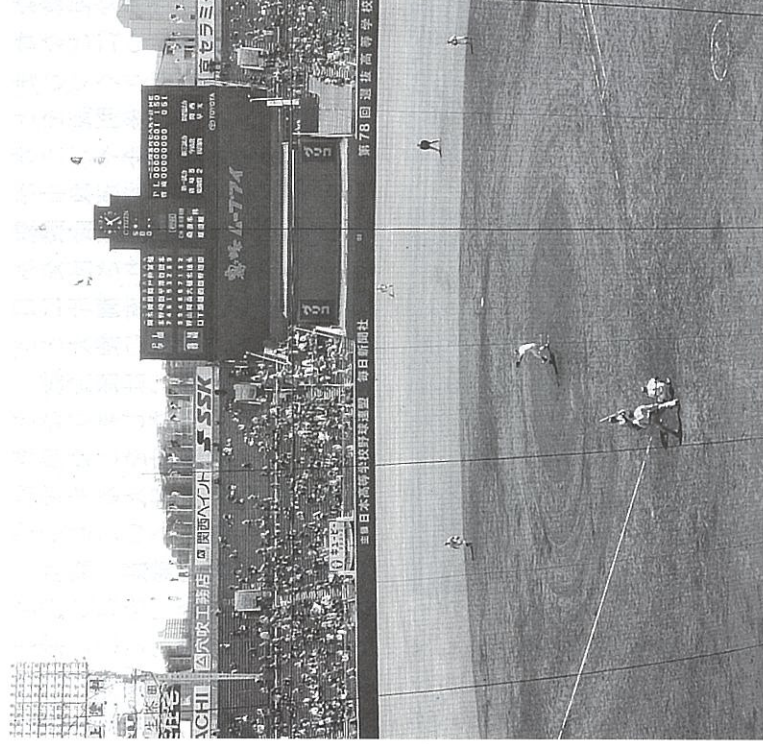
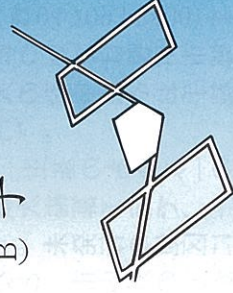
十年以上前になるが、息子と広島に旅行した。丁度、広島駅前を都道府県対抗の駅伝が通過したので、私は迷わず千葉県を応援した。息子は埼玉を応援したのを見て、自分が故郷を押し付けていたのに気が付いた。埼玉にないものをいくらねだつても仕方ない。埼玉のいいところを探そうと思った。それから鳩ヶ谷は私にとって大切な場所であるし、今では新潟も大好きで大切な場所だ。でも故郷は全く別物であつて、いつまでも私の中では最上位に輝く大事な大事な所である。故郷の良いニュースを聞けば喜び、悲しい話には心が痛む。鴨川応援団の一人として、少しでもお役に立てればと願っている。



鴨川ふるさと会副会長 昼間 洋子

(長狭高校野球部OB)

もしも、故郷がなかったら...



平成二十一年度定期総会が 開催されました！



総会の様子

去る七月十二日(日)、東京のホテル銀座ラファイナートを会場として平成二十一年度の定期総会が開催されました。

総会には、会員とその家族四十一名のほか、鴨川市からは片桐有而市長、長谷川孝夫教育長が来賓として出席。事務局を含め五十名を超える出席者となりました。

総会の冒頭、会長からは、十周年を記念した会報の発行、鴨川ふるさと大使の会員からの増員、鴨川市へのふるさと



総会後に行われた懇親会

納税、ふるさと産品のお中元などでの利用を通じて、会員相互のネットワークを強化するとともに、鴨川市を盛り上げていきたい旨が述べられました。

片桐市長からは、これまでの活動への敬意と感謝のほか、「お年寄りから子供まで住んでよかった、住み続けたい鴨川市」を実現するため、人情と情熱、そして強い意思を持って、市政運営に全力で取り組んでいく決意が述べられました。

総会の議事では、平成二十一年度事業報告と収支決算、平成二十一年度事業計画と収支

予算を審議し、いずれも原案どおり承認。平成二十一年度事業として、年三回の会報の発行のほか、会員が持つ多様な知識、技能、経験を市政に活かしていくため、会員から構成する人材バンク(仮称)の整備などを実施していくこととなりました。

総会後は、新たに鴨川ふるさと大使に就任した九人の会員に片桐市長から直接委嘱状が交付されたほか、市長との懇談会が実施され、片桐市長が市政運営に関する基本的な考え方や今年度の主要事業などを説明後、ふるさと鴨川のまちづくりや海岸の保全、教育などについて会員との活発な意見交換が行われました。

懇談会終了後に行われた懇親会では、鴨川市から物産交流協会が出店。長狭米や干物などの農海産物や菓子といったふるさと産品の展示・即売が行われ、懐かしい鴨川の味を求める会員に大好評。ほぼ完売となったほか、宅配での注文も多く寄せられ、盛況のうち幕を閉じました。

新たに二十五名の会員が ふるさと大使に！

鴨川ふるさと大使は鴨川の有する豊かな自然環境、歴史、文化等の有形・無形の資源を

広く宣伝周知していただくことにより、鴨川市のイメージアップや観光振興を図ろうとするものです。



ふるさと大使委嘱式の様子

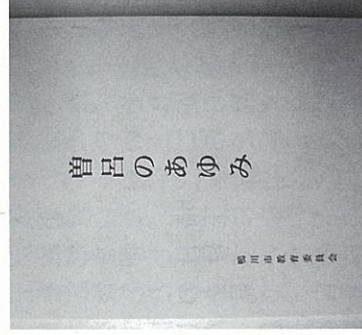
これまで会員からも四十五名の方が大使として活躍されていましたが、この度会員を対象として大使を増員することとなり、今年度の総会案内に併せ募集をしたところ、新たに二十五名の方からお申し出をいただき、そのうち定期総会に出席された九名の方には総会時に市長から直接委嘱状が交付されました。

ふるさと会では、ふるさと鴨川の素晴らしさをより多くの方に知ってもらうため、今後も大使への就任を定期的に

勧奨していき、当面は会員からの大使就任者が百名(現状七十名)となることを目標としていきます。

詳しくは、ふるさと会事務局までお問合せください。

地区別町村誌のご紹介



鴨川市教育委員会では、鴨川市の歴史を、読み物としても楽しめるようできるだけ簡明な文章で説明した地区別の歴史本「〇〇のあゆみ」シリーズを発行・販売しています。

現在までに田原・大山・主基・曾呂・太海・小湊・天津の7地区の「あゆみ」が完成。初版分が売切れ間近の地区もあるなど、市内外の方から人気です。未発行の地区についても順次編纂予定で、一冊七百円(「主基のあゆみ」のみ六〇〇円)。

ご購入のお申出やお手続きの詳細については鴨川市郷土資料館(☎04-7093-3800)までお願いします。



教育部会 池田 一 男

若者誘致で 市勢の活性化を

会員の皆様からお寄せ頂いた
一意見等を掲載するページです。



会員の皆様からお寄せ頂いた

一意見等を掲載するページです。

若者誘致で 市勢の活性化を

教育部会 池田 一 男

私は鴨川市西の出身で、千葉師範学校（現千葉大）附属小学校に勤務していましたが、父の急逝で鴨川に帰り、千葉県教育センターに転勤するまで曾呂中学校教頭・鴨川中学校教頭・大山小学校長等十七

年間お世話になりました。故郷鴨川をこよなく愛し、ふるさと大使を拝命して一層関心を高めるようになりました。

私が通っていた昭和八年ころの曾呂小学校は、約五百人の児童数でしたのに現在六十八人とのことで少子化の激しいことに驚きます。市内何処の学校でも同じ傾向とこのことで、このままでは鴨川市は過疎高齢の医療介護市になってしまうのではないかと危惧します。

老齢夫婦や独居老人で後継者のリターンを待ちわびている家庭も少なくないようです。

私は曾呂小学校同窓会東京支会の会長をしています。鴨川に帰って親の面倒を見たいが働く場所がなく生活できないので定年まで勤め、年金生活になったら帰るつもりと声をよく聞きます。

また、大学卒業と同時に都市部に就職した若い男女で、帰郷して家を継ぎ結婚もしたいと考えているが、鴨川では生活の目途が立たないとこぼしている者もいます。

鴨川は気候風土に恵まれ、交通の便もよくなり、休耕田等で用地もあるので企業を誘致して若者の働く場所の確保に努めたらどうかと思います。また、リターン相談センター

があつたら喜ばれるのではないのでしょうか。

私が鴨川中学校に勤務していた昭和三十年代は殆どの生徒が地元の長狭高校に進学していましたが、現在では成績上位の者は遠方の安房高や志学館高に進学すると聞いています。折角地元施設設備の優れた県立高校があるのに勿体無い事です。地元高校なら家庭の経済的メリットも大きいと思います。

高等学校は成績上位の生徒が入学すれば大学進学率も高まります。嘗ての長狭高校から東大始め有名大学に合格する者が何人もいました。部活動の成績もよく、長狭高の名は響いていました。現在の先生方は成績上位の者がいないために、以前以上に努力していることがよく分かります。

地元高校進学運動を起こすべきかと思います。特に中学校における進学指導が大事と考えます。鴨川市に一流予備校を誘致して現存の学習塾と一体的経営をすることも必要なことと思います。

職業高校志向の者は安房拓心高か館山総合高に進学し、普通科志向の生徒は長狭高への進学を原則とすることが鴨川市勢の発展に繋がると考えます。

会員のお店

会員の方が経営するお店を紹介するコーナーです。

今回は木村絹代さんがご夫婦で経営される東京都三鷹市の「味の彩華」です。

木村さんは、鴨川市の合併に伴ってふるさと会にも多くの旧天津小湊町出身者を、という方針で呼びかけを行った平成十七年度に入会いただき、平成十八年度からは会の役員もお願いしています。

「出会いに感謝」をモットーに創業三十六年を迎えた「味の彩華」は、主に中華料理を

扱うお店。こちらの一番のおすすめ「塩らーめん」、実は日本テレビ系列で放送された「どっちの料理ショー」で紹介されたほどの一品なのです。

鹿児島産黒豚と地鶏の旨みに加えて十種類以上の野菜のエキスをブレンドしたスープに、牛乳とワインと玉子を5種類の厳選された小麦粉に練り込んで熟成させたオリジナルの自家製細麺が調和します。

美味い料理に食事の時間が彩られて、ふるさと鴨川の話にも華が咲くはず。

お店の場所等詳細は左の広告欄をご覧ください。

味の彩華

どっちの料理ショー「塩らーめん」 おいしい応援店の

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-23-16
JR中央線三鷹駅南口徒歩1分
南口を出てデパートコソラの横のエスカレーターを下り
左手のドコモを左折した正面。

TEL0422-43-2044 FAX0422-43-2044

味の彩華

ふるさとの味

ふるさと会では懐かしい「ふるさとの味」を会員の皆様やそのご友人の食卓にお届けするため、みんなみの里の協力を得て平成十六年から「ふるさと製品セット」を会員向けに企画・紹介してきましたが、この度、新たにパンフレットが生まれ変わりました。

これに伴い、今まで多くの方にご愛顧いただきました農海産物、花卉、日本酒に

加え、はちみつ、ジャム、味噌や梅干などの加工品、鴨川の海洋深層水を使用した塩まんじゅうをはじめとした甘味や、昨今テレビでもとりあげられることの多い本市出身で江戸時代に活躍した彫物大工「波の伊八」関連のグッズなど、大幅に取扱い品種も増となっております。

皆様からの多くのご用命をお待ちしております。

詳しくは、ふるさと会事務局まで。

ただ今選定中！ 「市のシンボル」

本年度、鴨川市では合併後の新市における市のシンボル「市の花」「市の木」「市の魚」を選定するための取り組みを進めています。会員の皆様にもご協力をいただき、多数のご意見をお寄せいただきました。

この紙面をお借りしてお礼を申し上げますとともに、これまでの経過をお知らせします。

既に応募は締切となりましたが、全体として五百五件の応募があり、そのうち会員の皆様からは十四名の方にご意見をお寄せいただきました。

今後、審議会での答申、市議会への報告等を経て、来年

一月に公表となる予定です。で、今回の会報では選定結果をお知らせできる見込みです。

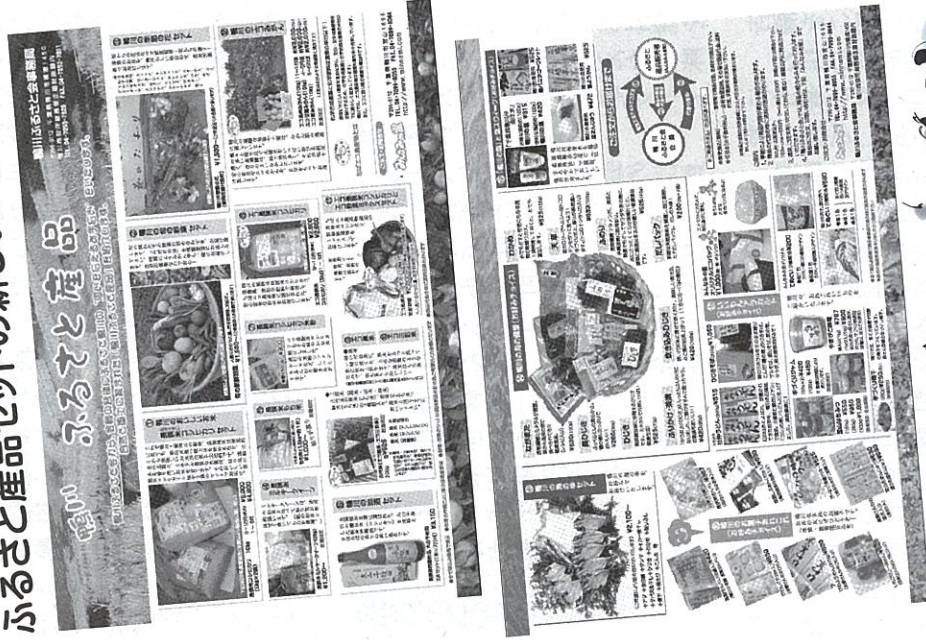
ふるさとにチカラを！

鴨川市では「ふるさと納税」制度の下でのご寄附を募っています。が、「鴨川ふるさと会だより」創刊号にて会員の皆様にお声掛けさせていただきましたところ、多数のお申出をいただきました。

この紙面をお借りしてお礼申し上げますとともに、平成二十一年度における実績をお知らせします。

平成二十一年度は十一月末日現在において、全体として六十六件（二百十五万円）のお申出をいただいております。そのうち会員の皆様からのもの

ふるさと製品セットの新しいパンフレット



は十九件（七十二万五千元）にのぼります。

全体として見ても、平成二十年度の実績が四十件（百九十七万五千元）でしたので、件数・金額ともすでに前年度を上回るお申出をいただいていることとなります。ふるさと納税は市外在住の方からお申出をいただくことがほとんどですが、会員の皆様を含め、鴨川を離れて暮らす方のふるさとへの想いというものを改めて強く感じざるを得ません。

なによりもお申出いただいた方の「想い」にしっかりとお答えするため、いただいた寄附金については有効に市政

に活かして参ります。

なお、ご寄附の申出書、制度の概要・手続きの流れ等、詳しくは鴨川市のふるさと納税専用サイト「鴨川ふるさと」とをご覧になるか、ふるさと会事務局までお問合せください。

ふるさと会事務局 鴨川市役所企画財政課

☎04-7093-7828

電子メール

furusato_nouzei@city.kamogawa.lg.jp

掲載記事の募集

「鴨川ふるさと会だより」では会員相互及び会員と鴨川

市との間でより活発な情報交流を図るため、会員の皆様発の掲載記事を幅広く募集しています。

今回は池田一男氏と木村絹代氏から貴重なご意見や情報をご提供いただきましたが、今後も、会員の皆さんが経営するお店・会社の紹介や、出身校の同窓会レポート、鴨川産の食材をつかった料理の調理法、健康等に関するコラムから鴨川市政について想うことまで、掲載欄・文字数・形式など、可能な限りご希望に沿った形で相談させていただきますので、お気軽にふるさと会事務局までご連絡ください。

